

# 魔神の呪

(大正六年寮歌)

佐藤惣之助君 作歌

植村泰二君 作曲

一

魔神まじんの呪のろいアルペンの  
白雪はくせつ永久とほに清きよからず  
見みよ永劫えいこくと誓ちかひけん  
平和へいわの春はるは短みじかくて  
吹ふく凋落ちようらくの秋風あきかぜに  
正義せいぎの光影ひかりかげくらし

二

されど儼然げんぜん東洋とうように  
その義ぎと俠きやうを胸むねにして  
燦さんたる北斗ほくと北陸ほくろくの  
強きやうと仰あがれ誇こりつづつ  
自治じちを精神いのちの我寮わがは  
映華えいけしある歴史しじゆう十二年

三

嗚呼ああ北海ほつかいの荒吹雪あらふぶき  
白箭はくせん膚はだを撃つくも  
胸むねの狂瀾きやうらん青春せいしゆんの  
血潮ちしおに如何いかで比ひすべきぞ  
力ちからの緒琴おごと高鳴たかなりて  
紅くれな燃いゆる悶もだえあり

四

殘陽ざんよう西にしに茜あかねして  
今日きようも暮くれ行く手稲山ていねやま  
雲くもの五彩ごさいを眺ながめては  
思おもひは遠へうく渺茫ぼうぼうの  
彼かの海うみを越こえ山やまを越こえ  
雄図ゆうと千里せんりぞ駈はしりゆく

五

平和へいわの流れなが豊平とよひらの  
狭霧さぎり罩こめたる朝あさぼらけ  
東ひんがし指さして流ながれ行く  
淙々そうそうの音ねを我聴われきけ  
瀨々せせの河波かはなみ声こえあげて  
唄うたふ「自由じゆう」の二字にじの曲きよく

六

今宵こよい榆影ゆえいに団欒まじあひして  
月影つきかげに酌くむ自治じちの宴えん  
廻めぐる盃さかずき夜よも更ふけて  
北斗ほくと傾かたぶく玻璃はりの窓まど  
いざ吾わが友ともよ熟睡うまいせむ  
明日あすは人生じんせいの旅たびなれば